

## 令和4年度第3回名取市男女共同参画推進委員会 会議録

1 日 時 令和5年2月24日(金)14:00~14:45

2 場 所 市役所 4階会議室

3(委 員) 寒河江和樹委員長、高橋真佐子副委員長、佐藤繁樹委員、岩沼裕子委員、  
小野寿昭委員、柴田力夫委員、星真奈美委員、村上寛子委員

(欠席委員) 石山光広委員、佐藤莉委員

(事務局) 浅野課長 渡邊課長補佐兼係長 清野主査

4 会議内容 別紙のとおり。次第に沿って、要点記録により作成する。

## 第3回名取市男女共同参画推進委員会

1 開 会 司会進行:渡邊課長補佐兼係長

2 委員長あいさつ 寒河江委員長

### 3 議 題

#### 報告事項

(1)報告事項(1)2023年3月男女共同参画情報誌「ハンド・イン・ハンド21+第20号」の発行について

事務局から資料や広報記事に沿って内容説明を行い、各委員が記事を読んだ感想や意見を述べた。下記のとおり。

委員:

別冊ではなく、市内全世帯へ配布される広報なとりに掲載したことが良かったと思う。男女共同参画関係単独の情報発信ではなく、他の市政情報と共に発信することで、目を通す人も多くなるのではないかと。

委員:

この記事の話題をきっかけに、夫婦間で男女共同参画に関する話をするようになった。家庭内でゴミ捨てやトイレ掃除などの家事分担に関する意識が良い方向に変わったように感じる。市内の家庭への配布ということで、各家庭においても意識づけるきっかけになるのではないかと期待している。誌面も見やすく、どの世代にもわかりやすいと感じた。

委員:

この委員会への参加は2期目であり、Hand in Hand21+の記事を目にするのも数回目である。広報なとりの誌面を買取して記事掲載を行うようになったのは令和3年度からであり、以前は別冊資料として配布していた。配布方法が変わった経緯がいろいろとあるが、次年度からの啓発記事についても、どんな方法で配布し、どのような内容が効果的なのか、現在の委員会で協議していく必要があると考える。

委員：

男女共同参画推進委員になったのは今年からだ、その他にも市の委員を引き受けている。そのうち、ゴミ減量に関する委員会でも啓発記事を広報などに掲出するが、記事スペースは半ページほどであるため、今回の2ページ見開きの記事と比較すると、やはり伝わる情報量の差の大きさを実感する。

また、10ページに記載の“翔け!名取の女と男フォーラム”にも参加したが、実際に参加すると学ぶ部分が多くあった。市で実施した事業を誌面に並べて、どんなことに取り組んでいるかまとめて知らせることも男女共同参画推進効果が期待できると思う。

委員：

人に読んでもらうものとして考えたとき、人の顔があまり写っていないことが気になった。人の顔が写っている写真はインパクトが強いので、もっとインパクトの強い写真を大きく載せて、そこに説明を加えるかたちの誌面が良いのではないかと。広報誌は2色刷りの記事なので、ポスターのように誌面いっぱいを使って、強く訴えるような誌面でも良いかもしれない。

委員：

前回の委員会で「ページ数が減って2ページになる」という事務局説明があり、どんな誌面になるか、限られたスペースに情報をどれくらい収められるか、どんな記事内容になるかを考えていた。今回、広報などに掲載された記事を読んでみたところ、コンパクトに見やすくまとまっており、読みやすいと感じる。記事作成の大変さがしのばれる。

委員：

写真がたくさん載っていることで、会場や参加者の雰囲気がわかりやすく伝わって良いと思う。実際に女性起業応援イベントのワークショップに参加したが、こういった事業の開催を望んでいた参加者から喜びの声があった。そういった『こういう人たちが、こんな雰囲気で参加しているよ』という情報が写真として伝わることは、今後の事業実施時に参加者を呼び込む面からも大切である。

委員長：

一目見た印象から、市の取組がコンパクトにまとまって読みやすい誌面となっている。前年度からページが半減することについては前回の委員会で事務局からの説明があったが、情報を2ページ内に収めるということで、記事作成の苦労を推察するところである。改善点として、写真②③を含め、説明がない写真が気になった。写真だけではなく、その写真の事業内容に関する説明も加えれば、もっとわかりやすい。予算や誌面の関係もあるが、もう少しページ数があった方が市民の皆さんに正確に情報を伝えられるのではないかと考える。

(2) 令和4年度男女共同参画推進委員会の活動について

事務局から資料に沿って説明を行った。各委員からの意見や事務局回答について、下記のとおり。

委員：

3月の性的マイノリティ事業のゲストについて、著書を発行しているとのことだが、この書籍は書店で購入できるのか。

事務局：

学術書に分類される書籍であり、置いてある書店は限られる。書店で取り寄せしたり、Amazonなどのオンライン販売を利用したりの方が購入しやすい。

なお、3月24日のイベント時、ゲスト本人が販売用の書籍を数冊持参する予定であるため、イベント参加可能な方はその場で購入していただくのも良いかもしれない。

委員：

自費出版ではなく、出版社を通しての発刊なのか。

事務局：

出版社からの発刊である。

なお、興味のある方は、名取市図書館で貸出用として置いてあるので、そちらを利用していただくのも良いと思う。

委員：

性別欄の見直しについて、“見直し”というのはどういう状態のことか。

事務局：

市民が使用する様式について、性別欄の記載があるものは“本当に性別情報が必要な業務か”を全ての部署に再確認し、『性別情報がなくても業務に支障がなければ、様式から削除』、『男・女という2つの選択肢以外に“その他”などの選択肢を加える』、『選択式ではなく記述式の性別欄であれば、戸籍、身体、性自認など、どの性別情報を記載するかの説明を追記』ということで、記載内容の見直しを行ったものである。

今回、見直し可能という回答があった様式については、現在現況を追加調査中である。今後2年に1回ほどのスパンで、新規様式の追加がないか、その性別欄の記載状況はどうなっているのか、調査を継続する予定である。

委員：

性的マイノリティに関する市民アンケートの部分について、収集してからの集計と分析も大変

だったことと思う。ただ、今後の改善すべき点として、集計結果を円グラフで記載する場合はパーセンテージの大きいものから順に記載してほしい。目が迷わず、見やすくなる。

委員：

これは人間が任意で作成したものではなく、PCでプログラムを組んで集計したものだと思う。グラフをカラーにすると色分け順などの規則性が見えてくると思うが、白黒の資料だとそれがわかりにくい。

事務局：

次回以降、グラフ資料等についてはカラー印刷にし、データの記載順についても委員のご指摘を参考に改善する。

委員：

アンケートについて、2点ほど意見がある。

1点目として、事務局説明では、アンケートを2,500件作成・配布し、回答61件だったとのこと。これは少ないのではないかと思うので、次に実施する際はもっと回収率の良いやり方がないか検討してほしい。

2点目、自分の仕事で性的マイノリティ当事者の方と関わることもあるため、このデータには大変興味がある。引き続き、項目を見直したりしてもっと大きな件数で統計をとれるとより良いと思う。

事務局：

性的マイノリティに関するアンケートの補足として、イベント会場等では紙媒体で配布・回収しているが、それと並行して、当事者の「自分が当事者だと知られたくない」という気持ちに配慮し、ポケットティッシュにアンケート用二次元コードのシールを貼り、広く配布する方法をとった。悩んでいる方や意見がある方からの任意回答、というかたちである。

事務局でアンケートコード付ポケットティッシュを手作りし、各方面へ2,500個ほど配布したが、回収率の低さについては、ティッシュ自体を目的として受け取る方が多かったため、ということだと考えている。

この結果は、地道に集めたデータであるとともに、アンケートを行うこと自体、名取市が性的マイノリティに関する施策に取り組んでいるということを知っていただく機会であり、『性的マイノリティに関する取組がある』ということが、当事者の気持ちを軽くすることにつながれば良いと期待している。

委員の意見にあったように、この施策において、当事者の意見の吸い上げはとても大切だと認識している。今後も性的マイノリティに関する施策を検討し、継続していきたい。

委員：

私は、2,500件中61件の回答があったことは素晴らしいと思う。

以前、営業関係の仕事で、3,000個以上の割引クーポン付きポケットティッシュを配布し、2

～3件しか集客に結び付かなかった経験がある。アンケートやチラシを作って配ることも大変だが、そこから反応を返してもらうことは本当に困難なことである。

事務局：

大変ありがたい意見である。今後アンケートを行う際に、委員方からの意見を参考とさせていただきます。

#### 4 その他

委員会全体を通して、委員からの質問に対し、事務局が下記のとおり説明を行った。

委員：

今回の情報誌について、ページ数や配布方法が例年と異なる理由を説明してほしい。

事務局：

第2回委員会で説明をした内容でもあるが、前年度は広報などの誌面を4ページ買取して記事の掲載を行った。今年度も4ページ分の予算を確保していたが、物価高騰により、結果的に2ページ分しか買取できなかったところである。

先ほど、委員から意見があったとおり、来年度は広報誌を4ページ分買取し、2ページずつ年2回掲載することなどを考えている。内容や配布・掲載方法については、次年度の委員会で改めて協議をお願いしたい。

事務局：

3月24日のイベントについても、周囲の方に興味がある方がいればぜひ勧めていただきたい。参加者申込者へ場所を伝えるという方法をとるので、チラシに開催場所を掲載していない。図書館ナイトライブラリーについては市図書館を会場として開催する。

委員：

チラシを見て、記載内容や開催方法など、かなり当事者へ配慮した内容になっていると感じる。それは、こうした方が良いというデータがあったためか、それともゲストからのリクエストやアドバイスを受けてこのような形をとっているのか。

事務局：

ゲストからの指示や助言は特に受けていない。事務局の判断である。

当事者か否かを問わず、参加申込を受付するが、可能な限り当事者の目線に寄り添って開催したいと考えた結果となっている。興味本位で会場を見に来る人がいる可能性も考慮し、

申込者のみへ開催会場や詳細な内容を伝える手法をとっている。

今回、このようなイベントは市としてはじめて開催する。どの手法が正しいかわからないが、心地よく参加してもらえるイベントになれば良いと思う。

事務局：

今年度の会議は今回が最後となるが、次年度の案内を4月以降にお送りするので、その際はよろしく願いたい。

9 閉 会

以上